課題番号10

青年農業者の育成

～　プロジェクト活動を通じた技術向上　～

対象：由仁町４Hクラブ　6名

１　活動の背景

　クラブ員の栽培技術向上を図るため、由仁町の基幹作物（水稲、小麦、大豆）についての勉強会や経営分析の共同プロジェクト活動を支援した。

２　活動の経過

共同プロジェクト活動

テーマ：経営分析について
　クラブ員6名はこれから経営移譲を控えており、将来の経営に向け、自家の経営分析に取り組む。

1月22日　組勘データを見える化する経営管理ツール(※)研修会実施
2月26日　クラブ員との結果検討会
　　自家のR6、7年や他のクラブ員との資金収支の比較実施

※組勘データを見える化する経営管理ツールとは、組勘csvデータを所定のエクセルに貼り付けるだけで、自動的にデータの集計とグラフの出力が実行されるツール（H23年普及推進）

写真1、2　組勘データを見える化ツール研修会

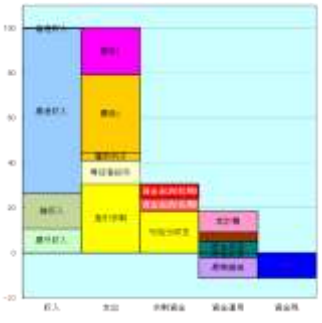

図1　組勘データを見える化する経営管理ツール（例）

個人プロジェクト活動

バイオスティミュラント資材（花吹雪EX）
期待される効果:花芽誘導、着果肥大効果

　昨年、花吹雪EXを大豆に使用し、効果を実感したので、秋小麦での効果（穂の段数増加）を確認する

5月5日　　花吹雪EX 100mL/10a施用
8月28日　収量調査

視察研修

6月27日
仁木町水稲生産者視察

2月2～4日
関西方面視察

写真3　仁木町生産者視察

ほ場巡回

5月12日　水稲育苗ハウス巡回
6月17日　水稲、小麦、大豆ほ場巡回
7月9日　水稲、大豆ほ場巡回
8月13日　水稲、大豆ほ場巡回

普及センターは生育調査方法や管理の注意点を説明した。

写真4　水稲ほ場巡回

写真5　大豆ほ場巡回

3　成果の具体的内容

共同プロジェクト活動取組数

現況　1課題　⇒　目標　1課題　⇒　実績　1課題

クラブ員が組勘データを見える化するツールを入力するところまでを目標とする。

自家の経営を同地域の人と比較し、所得率が低いことが把握できたので、改善したいという感想が聞かれた。

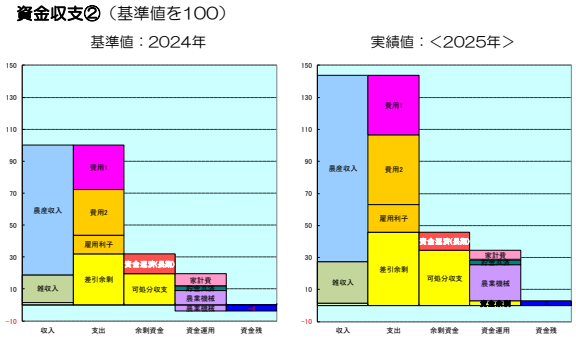

図2　組勘データを見える化する経営管理ツールを用いたR6、7年の比較

視察研修・ほ場巡回

クラブ員は視察研修で、当地域とは異なる条件（田越しかんがい）での水稲栽培を学んだ。

ほ場巡回では、生育調査を行い、自分のほ場の生育状況を地域平均と比較し、栽培管理に活用した。

個人プロジェクト活動

試験区の方が穂の段数が多く、製品収量も高かった。粗収入も試験区の方が高かった。

クラブ員からは、見た目ではあまり違いを感じなかったが、数字で見ると差が出ており、来年も使ってみたいという感想が聞かれた。

段数調査結果

	花吹雪EX 散布区	慣行区
平均段数	17.4	16.1

収量調査結果

	製品収量 kg/10a	㎡穂数 本/㎡	1穂粒数（製品） 粒/穂	千粒重（製品） g	歩留（2.3㎜上） %	販売額 円/10a	資材費 円/10a	粗収入 円10a
慣行区	642	627	28.5	37.7	95.3	40,114	0	40,114
試験区	880	667	36.1	37.9	96.3	54,985	940	54,045

※秋小麦単価、資材単価はJAそらち南に確認

4　今後の課題と対応

・プロジェクト活動の支援